

私がなぜ現在の科目を選んだか

「臨床検査技術科学」

信州大学医学部保健学科検査技術科学専攻

新井慎平

医療職への興味は、小学生時代に読んだ「ブラックジャック」がきっかけであり、テレビでも医療系のドキュメンタリー番組を好んで見るようになりました。高校の先生の友人に現役の臨床検査技師の方がいて、進路相談の一環でその方からお話を聞く機会がありました。恥ずかしながらそこで初めて臨床検査技師の存在と仕事内容を知り、現代の医療に必要な不可欠な臨床検査に興味を抱きました。さらに、ありがたいことにその方の職場も見学させていただき、高校生の私にとって初めて見るその世界はとても魅力的に映り、臨床検査技師の道に進むことを決意しました。

大学卒業後は本学の医学部附属病院臨床検査部に入職させていただき、主に血液検査学、一般検査学の業務を担当していました。日常業務を通して専門性を追

私がなぜ現在の科目を選んだか

「脳神経外科」

信州大学医学部脳神経外科学教室

山崎大介

私が“神経”に興味を持ったのは大学3年生の自主研究で選択した神経難病学講座に遡ります。神経難病ではALSについて研究を開始し、病理標本の免疫染色からご遺体の脳解剖など様々なことを経験させていただきました。その中で自ずと“神経”，さらには中枢神経である“脳”に強い興味を抱きました。学生時代の実習では、術前のプレゼンテーションや手術の第一助手、学会参加など脳神経外科の一員としての（そう錯覚させられるような）経験を多くしました。その流れで初期研修では脳神経外科を中心に麻酔科、救急科など全身管理に関わる診療科をローテーションし、信州大学の初期研修プログラムと提携していた埼玉医科大学の脳神経外科でも研修をさせていただきました。気が付けば2年目の夏、当時教授であった本郷先生と握手を交わし脳神経外科への入局が確定しました。

求し、他職種連携で仕事のやりがいを実感することができました。また、日常業務を行う傍ら、社会人大学院生として保健学科の先生方の指導のもとで病理組織学（修士）と血液学（博士）の研究に従事しました。大学院の研究テーマに加えて、日常業務中に発見した事例や稀少症例の解析といった臨床現場でしかできない研究も経験することができ、働きながら行う研究の楽しさに気付くことができました。

臨床現場では10年間働かせていただき、現在は母校で臨床検査技師の教育に従事しています。大学で経験する専門科目の講義や実習は、学生にとって初めて臨床検査を体験する場になります。そこで感じた興味や楽しさは、臨床検査を意欲的に学習する原動力になると考えています。臨床検査の知識や技術を伝授するだけでなく、この先の時代の変化に柔軟に対応できる臨床検査技師を育てられるよう、日々の教育業務に向き合っています。現在の研究テーマは「先天性フィブリノゲン異常症とその分子異常の解析」です。研究成果を通して新しい臨床検査法を提案できるよう、研究に取り組んでいます。（信大平22年卒）

信州大学の脳神経外科の特徴として留学生在籍していることも影響し、カンファレンスや学会発表のスライドは常に英語であり、日々のカンファレンスの中でも論文が引用されるなどアカデミックに富んだ環境が挙げられます。学会発表や論文執筆も科内で盛んに行われており、日常の診療業務をこなしつつも、その上で世界に発信できるような知見を創出していくことが当科の良さであると思います。一方で、一般に想像されるような毎日病院に寝泊まりしている外科医のイメージとは異なります。もちろん長時間手術や夜間の緊急もありますが、オンコール対応を徹底し、家庭と両立している脳神経外科医も数多くいます。つい最近のことですが、平日子どもの運動会に参加するとそれぞれ別々の病院勤務ですが同門の脳神経外科医が3人参加していました。

脳神経外科疾患は緊急性が高く常に高度な知識と技術が求められる緊張感のあるチャレンジングな診療科ではありますが、科学的な研究と臨床に裏打ちされた魅力ある診療科であり、自らが選択した理由なのだとこの記事を執筆しながら改めて実感します。

（信大平29年卒）